

じどうかん通信

第131号

令和7年2月発行

愛知県児童館連絡協議会

第13回元気スイッチ on!!あつまれ!あいちのじどうかんに参加して

大治町児童センター 伊藤 玲子

11月3日(日・祝)に犬山市民交流センターフロイデで開催された第13回元気スイッチ on!!あつまれ!あいちのじどうかんの「出前じどうかん—あそびば—」に参加させていただきました。

天気予報では雨予想でしたが、当日は雨の心配が無く穏やかなお天気になりました。出前じどうかんに参加された児童館は12館で、みなさん工夫を凝らしたブースを運営されていました。

大治町児童センターは「キャッチボールマシーン」というおもちゃを作ってもらうあそびばを提供しました。キャッチボールマシーンは紙コップや紙皿を使って作ります。あそびばの中でキャッチボールマシーンを一から作るのは難しいので、手間のかかりそうなところは予め準備をしておき、当日参加者の皆さんには組み立てをやっていただくことにしました。



ブースのパーテーションには「キャッチボールマシーン」と看板が貼ってあるものの、何をするのかはわかりません。でも、実際にマシーンを見ると皆さん「あっ!」と笑顔になられ、「作りたい!」とすぐに取り組んでくださいました。小さな部品を紙コップに通したり、輪ゴムを切り込みに入れたり、紙コップと紙皿をセロテープでくっつけたり、皆さん一生懸命組み立ててくださいました。最後にお花紙で作ったボールを紙皿に入れてバーを引っ張ると…。ボールがマシーンから勢いよく飛び出して、それをマシーンでキャッチ!うまくキャッチできてもできなくても、皆さんから歓声が上がっていました。

事前準備をしていたときには一人で遊ぶおもちゃと思っていたのですが、会場でお二人でキャッチボールされている姿を見て、「こうやって遊び方はアレンジされていくんだな」と実感しました。また、児童館にお勤めの方からは、「ぜひ作ってみたい」とのお声をいただきました。当日にレシピもお渡ししましたので、いろいろな児童館で作ってもらえたらうれしいです。

令和6年度 第2回東尾張・知多ブロック研修会に参加して

東郷町 北部児童館 竹田静香

11月15日（金）に東郷町のイーストプラザいこまい館で開催された「第2回東尾張・知多ブロック研修会」に参加し、サクソフォン奏者である坂井利絵氏より「表現活動・アンサンブルを楽しむ～表現と対話～」を学びました。短い時間ではありましたがとても楽しい時間でした。表現とは何か、表現力があるとはどういうこ

となのか等を意見交換し子どもたちの内面（心理的、感情的、精神的）を外面に表すことができるために私たち児童厚生員ができることは何かを考えるきっかけになりました。

実技での「息を合わせる」「リズムを楽しむ」「アンサンブル（2人以上で一緒に演奏する）を楽しむ！」では、グループごとに全身を使って音を出し、それぞれに違うリズムや言葉を息を合わせて奏でることや、それらが合わさって

いく過程が楽しく、また、テーマを共有しイメージする中で自分の考えや気持ちを相手に伝え、それを受け入れ合って皆で1つのものを作り上げた時に達成感を感じました。

坂井先生からの「音楽家でも全く同じ音を出せる人はいない。一人ひとり違う音を持っている。違う個性を持っている。子どもが自由に表現し、表現したことを受け取ってくれる人がいる安心感や安心できる場であるために、私たちは受け取るアンテナを張っていたい」という言葉にとっても感銘を受けました。改めて児童館職員は子どもたちに寄り添った存在でありたいと思いました。

午後の情報交換では「気になることを話し合おう」ということで、グループに分かれて情報や意見の交換をしました。中高生の居場所作りとしての取り組みや課題、児童館で人気のあそび、利用者が児童館に求めているものは何か、ICT化を含めた交流ルールのアップデート、職員間のチームワーク作り等々地域によっての状況は

様々で、意見交換をする中で新しい情報を得るだけでなく一緒に考え、提案し合う時間にとっても充実感を感じました。

子どもたちのことが大好きで、日々関わり、子どもたちの健全育成に対して同じ気持ちで毎日を過ごされている研修に参加された皆さんと一緒に学ぶことができた貴重な時間でした。



令和6年度 第2回児童厚生員研修会に参加して

東海市 大谷文子

令和6年10月11日（金）豊川市勤労福祉会館で開催された「個別援助活動」の研修に参加しました。講師の同朋大学准教授宮地菜穂子氏は、これまでの経歴を通して得られた知識やエピソードをたくさん話してくださいました。児童館に来る子どもの姿を思い浮かべながら、行動の背景や児童厚生員としてのかかわり方について、多くの気づきを得ることができました。

その中でも印象的だったのは、虐待の通報件数が増えている中で、保護される件数は全体の2%程度であり、ほとんどの子は怖い思いをするかもしれない家庭で生活をしていることです。そのような中で、児童館に来ていた時間は安心してその子らしく過ごせること、児童館だから出せた子どもからのSOSのサインを児童厚生員が見逃さずに受け止めることの重要性を改めて感じました。今まで以上に1対1で話す時間や遊びに付き合う時間を大切にしたいと思います。

虐待の後遺症として「悪い自己イメージ」や「基本的不信感」が形成されると聞き、児童館で荒い言葉を遣ったり、すぐトラブルになったりする子の姿が重なりました。挑発的な行動は、育ちの中で対等な関係を知らず、優しくされることにさえ不安を感じるため、いつもの関係（怒られる）になることで安心するために起こることもあるそうです。これを聞くと子どもの見方が変わり、叱る以外のかかわりの大切さを実感しました。不安を抱える子どもに対して、どんな些細なことでも「それでいいよ」と伝えることから始めたいと思います。

また、“子どもを行動で見る”こと、“伝えるときは具体的で丁寧でわかりやすい表現にする”こと、という2つのポイントを教えていただきました。

例えば、「片付けしない」ではなくその時「何をしていた」のかに注目し、兄弟で分けるおやつを一人で全部食べた行動を「意地悪した」ではなくて「一人で全部食べた」と行動で捉えたと、客観的に子どもを理解できるそうです。また、子どもに伝える際も「ちゃんとしなさい」よりも「この線で待っててね」と行動で伝えるとわかりやすくなることも学びました。

研修後、一緒に参加した同じ市内の児童厚生員の皆さんと「子どもの見方が温かくなるね」と話しました。今回学んだことを活かし、児童厚生員同士が、子どもから聞いたことや気づきなどを伝え合い共有することで、子どもをより理解し、子どもにとって適切で温かなかかわりができるようにしていきたいと思います。

～行事の紹介～ おばけやしき

津島市中央児童館

毎年、7月末の日曜日に津島市中央児童館では地域ボランティアグループ、小学4～6年生約20名からなるジュニアリーダー研修会、近隣高校ボランティア部の協力のもと、おばけやしきを開催しています。

“本格的なおばけやしき”をコンセプトに小学生～高校生がおばけ役となりコースの設定やどこでどのおばけを配置するかなど話し合い決めています。

受付や案内役の児童もおばけやしきに入る前からドキドキ感や期待感を持てるよう浴衣を着ておばけメイクをしてお出迎えをしました。おばけやしきのコースでは25名程のおばけがボランティアグループさんの用意した衣装や自分たちで考えた衣装に着替え、お客さんを驚かしました。



おばけ役をした児童からは「みんな驚いてくれて楽しかった。」「どうやったら怖がってくれるか考えて頑張った。」と大満足な様子でした。

おばけやしきを体験しに参加してくださる方は市内の児童、幼児親子さんから市外の方まで幅広くおり、怖すぎて泣いてしまう子や、面白くて何回も入場して逆におばけをなんとか驚かそうとする子など反応は様々ですが、

楽しんで参加をしていただきました。





今日はみんなでタコパ！！

工作遊びの紹介

瀬戸市交通児童遊園



工作あそび その① 「たこたこキャッチャー」

工作あそび その② 「凧あげ」

【たこの作り方】

トイレットペーパーの芯を半分に切って折り紙を糊で貼り、たこの足を切って目と口のシールを貼ったら完成！

【キャッチャーの作り方】

- ① 牛乳パックを写真のように切る
- ② ラップ芯を①につける。
- ③ 牛乳パックの端をとじて、好きな色画用紙をまわりに貼ったらできあがり。



レッツ！タコパーティー！（遊びの様子）

たこをいっぱい
とったほうが
かちだよ！



高校生と小学生が一緒につくった凧。
異世代交流「凧作り教室」も行っています。



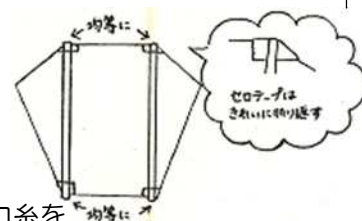
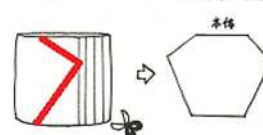
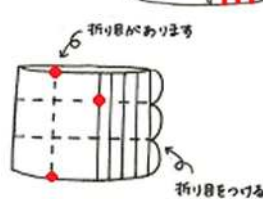
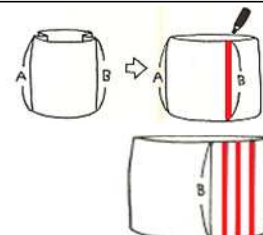
この凧めっちゃ
あがってる～！

【準備するもの】

- ・取っ手付きビニール袋
(今回は横 30cm×マチ 15cm×横 53cm を使用)
- ・竹ひご ・たこ糸 ・セロハンテープ
- ・はさみ ・カラー油性ペン

【ビニール凧の作り方】

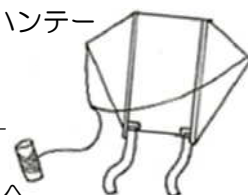
- ① ビニール袋の上下を切り、マチの部分をはさみで A が一番左にくるようにし、B には線を引く。
- ② B の右側を 4 等分にする。
- ③ 右の絵のように印をつける。
- ④ ③で印をつけた部分を線で結び、切って開く。
- ⑤ ②を切って凧の足を 8 本とる。
- ⑥ セロテープで凧本体に竹ひごを貼る。



- ⑦ 凧の横幅 3 倍のタコ糸をとる。
- ⑧ 左右の両端に※糸目付けをする。
- ⑨ ⑧の真ん中に 3cm ほどの輪っかをつくる。



- ⑩ 揚げ糸を輪っかに※引き解け結びでくくりつける。
- ⑪ ⑤で切った凧の足をセロハンテープでつける。
- ⑫ 好きな絵を描いて完成！



※糸目付けと※引き解け結びの詳細は、
交通児童遊園(せとくらんど)の Instagram へ

遊びの紹介

まるで宇宙人！？ボイスチェンジャー

～ ワレワレハ…ウチュウジン ♪ ～

刈谷市 夢と学びの科学体験館

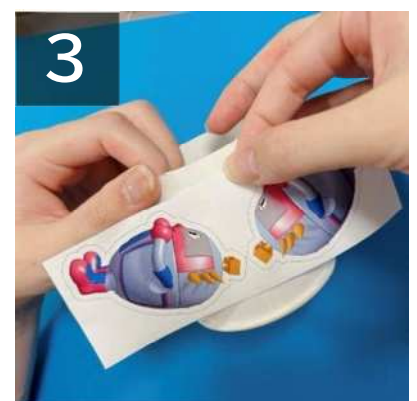
材料はたったの2つ！“ボイスチェンジャー”を作って、みんなで宇宙人になりきろう！

材料・道具

- アルミホイル（10cm）1枚
- ハサミ
- 紙コップ 2個



作り方

おすすめ
下準備カット線とカッターで切り込みを入れてあげると
子どもたちが切りやすいです切り込みにハサミを入れて
カット線に沿って1周切る片方の紙コップの底側に
アルミホイルをかぶせる

もう1つの紙コップを飾り付ける

アルミホイルの紙コップの上に
3の紙コップを重ねる飲み口側から
しゃべってみよう！

～移動児童館～ 「出前じどうかん」

北名古屋市 鹿田児童館 吉田 舞

今年度5月から「出前じどうかん」と称し、児童館職員が小学校へ出向き、子ども達と遊ぶ活動を始めました。

もっと子ども達に児童館を知ってほしい、児童館を身近に感じて欲しいと思い、昨年度1月に児童館から小学校へ「出前じどうかんを行いたい」とお願いをしました。校長先生が快く申し出を受けてくださったので、いつ・どのような形で行うかを職員間や小学校と話し合いを重ねました。その結果、まずは毎週木曜日の昼放課に運動場で子ども達と一緒に遊ぶ、という形に決まりました。そしてこの活動を始めるにあたって、児童館職員のことを学校の先生にも子ども達にも知ってほしいと思い、事前に職員紹介を持参し、掲示してもらいました。

初めて迎えた「出前じどうかん」の日。子ども達はどんな反応をするだろうかと少し緊張しながら学校へ向かいました。校長先生とお話しをしながら子ども達が運動場に出てくるのを待ちました。学校では、お昼の放送で「出前じどうかん」があることを告知してくれたそうです。

チャイムが鳴り、運動場に出てきた子ども達は、職員をみつけると「児童館の先生～！」「一緒に鬼ごっこしよ～！」と遊びの輪に呼んでくれたので一緒に鬼ごっこをしました。子ども達から声をかけてくれたことが嬉しかったです。あっという間の15分間でした。その日の児童館では「学校であったね！」「次はいつ来るの？」と出前じどうかんの話題で盛り上がりました。

出前じどうかんが始まり、約半年が経過しました。学校へ行くと子ども達が「今日、児童館行くね！」と声をかけてくれます。今まで来館していなかった子が児童館職員を知ってくれたり、小学校のホームページで活動を紹介してくださっているお陰で、保護者の方にも児童館の活動を知っていただく機会になりました。

この活動を始めて良かったと感じているもう一つのことは、小学校との連携が深まったことです。出前じどうかん活動の日はまだ浅いですが、児童館もいろいろな場所へ出向くことの大切さを実感しています。これからも積極的に出前じどうかん活動に取り組んでいきたいと思っています。

令和6年度「じどうかん通信」の発刊を終えて..

今年度よりメンバーの皆さんに教えて頂きながら機関紙づくりに参加しました。児童館の楽しい情報を来年もお届けします。
北名古屋市 山崎

この1年間、「じどうかん通信」を通じて愛知県の児童館の魅力的な活動を皆様にお伝えすることができました。今後も素敵な機関紙にしていきたいと思います。

刈谷市 加藤

ほぼ新しい方たちでの委員会となりましたが、和気あいあいとした雰囲気の中で進めることができました。楽しい1年でした♪

東郷町 加藤

今年度からメール配信となりました。



委員の皆さんに助けて頂きながら、機関紙を発刊することができ、ほっとしています。感謝感激!!
豊橋市 今泉、坂上



機関紙の発刊についてメンバーといろいろな意見を交わしながら進められ充実した1年でした。発刊に携わることができて嬉しかったです。

大府市 野村

一年間ありがとうございました。各児童館の皆さんの文才に感嘆しながら校正をしていました!楽しい編集会議でした!

大治町 中村

